

新選組像の変遷

新選組に関する作品との出会いが、私の学問的な進路に大きな影響を与えた。もし新選組が存在しなかったら、私は今、東京に1年間留学していないかもしれない。10代の私は、乙女ゲームをきっかけに、初めて新選組のことを知り、その物語に強く引き込まれた。ゲームのおかげで、日本の歴史や文化に興味を持つようになった。フィクションの中に出会った新選組はとても魅力的だったが、本物の新選組はどういう存在だったのかを知りたくなった。この問いが私の学びの出発点になり、新選組がどのように語られてきたのかを研究するようになった。

新選組とは何か

新選組は、1863年に江戸で結成された浪士の集まりである。最初は「浪士組」と呼ばれ、将軍の警護のため京に上った。しかし、創設者の清河八郎が尊王攘夷の考えを持っていたため、江戸に戻された。京都に残った近藤勇、土方歳三とその仲間たちは、会津藩お預かりで京都の治安を守る「新選組」になった。

新選組は、京都で尊王攘夷の志士たちを取り締まった。とくに、1864年の池田屋事件で有名になった。この事件では、過激な尊攘派志士たちが京都の町を焼き払って天皇を誘拐しようとした計画を察知し、未然に防いだ。隊士たちは命がけで戦い、多くの志士を殺し、捕らえた。これにより、新選組は幕府に忠実な武士として賛えられた。だが、その一方で、新選組は暴力的な集団として恐れられた。彼らの取締りはしばしば残酷で、志士に容赦がなかった。また、新選組の中で粛清も激しくなり、規律を破った者には切腹を命じることもあった。

明治以降の悪いイメージ

明治維新後、新選組の評価は大きく下がった。明治政府は、幕府を支持した者たちを「賊軍」と呼び、時代に逆らった敵と見なした。そのため、長い間、新選組は悪いイメージを持たれていた。しかし、大正時代から、新選組が少しずつ物語の中に登場するようになった。日本文芸の専門家・縄田一男によれば、1924年から1925年にかけて『サンデー毎日』に連載された白井喬二の『新選組』が、フィクションにおける新選組の最初の作品とされている。この作品では、新選組は悪役のように、主人公の敵として描かれていた。つまり、この時期には、新

選組は怖い敵、時代に取り残された暴力集団として考えられていた。また、当時の舞台や映画でも、新選組は同じように描写されていた。そのため、多くの人にとって新選組は正義の味方よりも維新志士の敵として見られていた。

昭和の再評価と小説の影響

昭和の初めごろから、新選組に対する見方が少しずつ変わり始めた。1928 年 11 月 10 日、昭和天皇の弟宮・秩父宮雍仁親王と、幕末時代の会津藩主・松平容保の孫である松平節子の結婚が行われた。天皇家とのつながりと共に、かつて「朝敵」とされた会津藩の長年の汚名がようやく晴れた。これにより、敗者の側に立った佐幕派の歴史を見直す動きが少しずつ始まった。

ちょうどその頃、子母澤寛が『新選組始末記』（1928）という小説を発表した。これは後に『新選組異聞』（1929）、『新選組物語』（1931）と続き、「新選組三部作」として知られるようになった。この本は、新選組の元隊士や彼らの家族の話に基づいて書かれた小説で、悲劇的で人間味のある新選組の姿が描かれている。

とくに、原田左之助の死についての記述など、読者の感情を動かした。筆者によれば、わずか二十九歳の原田は新選組の一員として江戸に戻った後、佐幕派の軍事集団である彰義隊に参加した。上野の山での激しい戦いの中で、鉄砲に撃たれて重傷を負った。「死損ねの左之助」と呼ばれる原田は、それでも必死に逃れ出た。本所の旗本・神保家の屋敷まで落ちのびたが、そこで一日中苦しみ、ついに息を引き取ったと語られている。

子母澤は原田の死をただの事実として書くだけではなく、その無念さや悲しみを強く描いている。原田の墓がどこにあるかもわからないと語り、未亡人のまささんのお願いに筆者自身も、長年にわたって、原田の墓所を探し続けていることを読者に伝えている。とくに、「特志の方でご存じあらばお教えを願いたいものである。」と読者に協力を求める書き方は、間違いなく当時の読者の心にも深く響いた。

さらに、『新選組物語』では、原田左之助は「新選組の中でも随一といわれた苦味走った美男」と形容されている。ただの勇敢な武士ではなく、外見や性格にも魅力があった人物として描かれている。このような作品は、1928 年に、会津藩主・松平容保の孫娘が皇室に嫁いだ年からは可能になったと言える。

司馬遼太郎とヒーロー化

1960年代になると、司馬遼太郎が『新選組血風録』（1962）と『燃えよ剣』（1964）を発表した。この2つの作品は、それまで厳しくて冷たい人と描かれることが多かった副長の土方歳三に、新しいイメージを与えた。司馬の描く土方は、理想通りに生きる情熱的な青年であり、仲間を思いやる強い人でもあった。密かに思い合う未亡人・お雪に、戦いの直前に心を打ち明ける場面がある。土方は「五十年連れ添おうとも、ただの二夜であろうとも、契りの深さにかわりはないとおもいたい」と言う。その言葉は、死を前にしても変わらぬ想いを伝える情熱的なものであり、土方の人間的な一面を強く印象づける。このように司馬遼太郎は、戦う隊士としての土方と、愛する人への想いを抱く土方の両面を描き出した。

さらに、『燃えよ剣』は、新選組を主人公たちの目線から描き、彼らの生き方や苦しみを読者に伝えた。彼らはただの暴力集団ではなく、新選組の隊士たちは、自分たちの正義を信じて、戦い抜く若者として描写していた。武士だけでなく百姓出身の者が多い新選組は、時代に取り残されながらも、自分たちの道を貫こうとする人物として描かれた。このような人間的な描き方は、読者の心を打った。困難や障害を乗り越えながら、自分の信念を貫いて生きることが美德とされた。時代に逆らいながらも、自分の信じた道を進もうとした新選組は、共感を呼び、人気を集めた。

また、司馬作品のヒットによって、テレビドラマや映画でも新選組を主役とする作品が次々に作られた。司馬遼太郎の作品の影響で新選組はもう「維新志士の敵」ではなく、愛されているヒーローとして見られるようになった。

現代メディアと新選組ブーム

2004年には、大河ドラマ『新選組！』が放送された。このドラマでは、若い俳優たちが当時の隊士と同じくらいの年齢で演じられた。主人公の近藤勇も20代の俳優が演じた。脚本家の三谷幸喜と時代考証家の山村竜也は、「新選組を青春群像として描きたい」と語った。

このドラマでは、彼らを超人的なヒーローではなく、「どこにでもいる若者たち」として描いた。それにより、視聴者は彼らに親近感を持ち、共感できるようになった。リアリティを大事にし、池田屋事件のシーンなどでは、実際の建物の

構造を再現したセットが使われた。そのため、映画などでよく見る「階段落ち」の場面は無くなった。

他の新選組についての番組に比べて、『新選組！』は視聴率が高くなかったが、反響は大きく、『新選組！！土方歳三最期の日』という続編の映画も作られた。放送をきっかけに、出演者の中には、俳優たちの人気が大きく高まっただけでなく、それまであまり知られていなかったキャラクターたちも有名になった。山南敬助（堺雅人）や芹沢鴨（佐藤浩市）などの本物の隊士たちにまで人気の幅が広がった。

これまでの芹沢は、酒に酔って乱暴なキャラクターとして描かれることが多かったが、そのドラマで別の一面もあった。確かに酒癖が悪く騒ぐ場面もあるが、佐藤の芹沢は、ただの悪役ではなく、人間らしさや苦しみも感じるリーダーである。つまり、複雑な人物だ。このドラマの影響で、芹沢を悪役にしない作品も増えた。

2004 年の大河ドラマ『新選組！』の放送は、新選組ブームの大きなきっかけになった。放送後には、絶版になってしまった新選組関係の本が再び売られるようになり、新しい小説やマンガも次々に出た。

新選組のキャラクター化

特に注目すべきなのは、近年、新選組は乙女ゲームなどの女性向けの作品にたびたび登場するようになった。2000 年代以降、歴史上の人物が恋愛の相手として描く作品が増え、新選組はその代表例な存在になった。たとえば、2008 年に発売された『薄桜鬼』では、さまざまな新選組隊士と恋愛ができる。

「もし新選組が現代にいたら」「新選組隊士が高校生だったら」「もし〇〇が死ななかったら」という想像を語る作品も広がった。漫画、アニメ、ゲームなどでは、歴史の中で短い人生を生きた彼らに、別の未来や幸せを与えることができる。悲しい結末を知っているからこそ、「今度こそ幸せになってほしい」と願う気持ちが強くなるのかもしれない。こうした作品を通して、新選組はただの歴史上の人物ではなく、現代でも新しい命を与えられた「キャラクター」として生き続けている。

結論

このように、新選組のイメージは、時代ごとに大きく変化し、さまざまな姿で語られてきた。明治以降、長い間「時代に逆らった敗者」として否定的に描かれていた彼らは、昭和以降の文学や映像作品によって、人間味あふれる存在へと再評価され、やがて平成・令和の時代には「キャラクター」として新たな命を吹き込まれるようになった。

歴史における新選組の貢献は大きくないかもしれないが、今では日本文化の歴史に欠かせない存在になっている。新選組像の変遷は、小説家、ドラマ制作者、そして読者や視聴者たちによって、作られてきた。新選組の物語は、過去の出来事に止まらず、時代を超えて語り継がれ、形を変えながら生きている。これからも、さまざまなメディアの中で新たな解釈が生まれ、人の心を動かしていくだろう。

私自身も、10代の頃にフィクションの中で新選組に出会い、彼らの物語に心を動かされたひとりである。そして今では修士論文として、NHK 大河ドラマ『新選組！』を通じて、現代における新選組の語られ方をテーマに取り組んでいる。スイスに戻るとき、この1年間で集めた新選組についての本の山をどうやって持ち帰ろうかと、少し悩みつつも、それだけで彼らが今も私の人生に大きな存在感を持ち続けていることを実感している。

参考文献

- 鶴田 武志. 「新選組」論始末記：2018年の明治再評価に抗うための覚書. 文化科学研究 = Cultural sciences. 名古屋: 中京大学先端共同研究機構文化科学研究所. 2017, p.1-21.
- 日野市立新選組のふるさと歴史館叢書. 『描かれた新選組 漫画・アニメ等から見た新選組イメージとファン』(第13輯), 2015.1.
- 小松宰. 『新選組映画はなぜ作られるのか』. 彩流社, 2023.
- 釣洋一, 秋山忠彌, 河合敦. 『映像で見る新選組』. 学習研究社, 2003.
- 山村竜也, 岸田一則, 横田淳編著. 『燃えよ! 新選組: 映画・テレビ完全ガイド: 保存版』. たちばな出版, 2003.